

報 告  
特 集

# 市 政 の 素 顔

## 日光市の実態とその問題点

地方自治は、私たちの生活とたいへん深い関係にあり、とりわけ市政は、直接、生活に密着したものと云えましよう。

私たちが毎日

使う水は、ほとんどが市の水道課で供給しているものですし、毎日たくさん出るゴミは、市の清掃事業所で処理しています。

しかし、あまりにも身近すぎて、市政というと市役所、市議会、あるいは税金という

### 市民のための市政

ものしか思い出さない人も多いのではないのでしょうか。本来、市政は私たちが日常生活を営むのに欠くことのできない各種の仕事を、地域住民が自

分たちの意思と責任によって処理するものです。

しかし、市政を実際に運営しているのは、皆さんの意思をついで選挙で選ばれた市長や議員であり、これらの人びとが、各

種の法律に定められた一定の枠に従いながら、地方の実情に合わせて、住民の創意工夫をいかし、住民の監視を受けながら、多くの問題を処理しているわけで、市役所は、いわば市民と市政の手や足の機関と言えましよう。

そこで今月の広報では、市民の皆さんに、現在の日光市の実態を知っていただき、明るい、ゆたかな日光市建設のために、皆さんとともに、その問題点を考えようと、「市政の素顔」を特集しました。

### 行政効率を上げる

#### 細長い市街地

本市の行政に、まず問題となるのが市街地が細長く、しかも地域の性格がそれぞれたいへん異なっていることがあります。

市の東端から西端まで、直線で結んでも約三八キロメートルあります。三三〇・八九キロ平方メートルという市域とともに、距離でも県内十一市の中では最大なのです。加えて、標高は最も低い小来川の三三五メートルから、最高地の湯元の一、四七八メートルまで、実に一、四三メートルの差があり、山や河川などで、地形的に分断された市街地集落が、観光・工業商業・農業、それに住宅地域と

全くといってよいほど異なった性格を持って点在するという複雑な地勢のまちは、他に類をみません。

そしてこのことが、浄水場とゴミの焼却場をそれぞれ四か所持ち、下水の終末処理場二か所それに常備消防署が三か所に配置されても、なお市民全部がその恩恵を受けるにはいたらないという、行政効率上の最大の悩みとなっているのです。

### 観光シーズンには

#### 人口十万人の都市

本市の人口は、昭和三十年の国勢調査人口三万三、四九〇人を最高に、以降は減少傾向をたどっており、四十年の同調査で

は三万二、〇三一人となり、本年十日一日に行なわれる国勢調査では三万人を割ることが予想されます。

しかし、実際に日光市がかかえている人口は、年々増加しているのです。

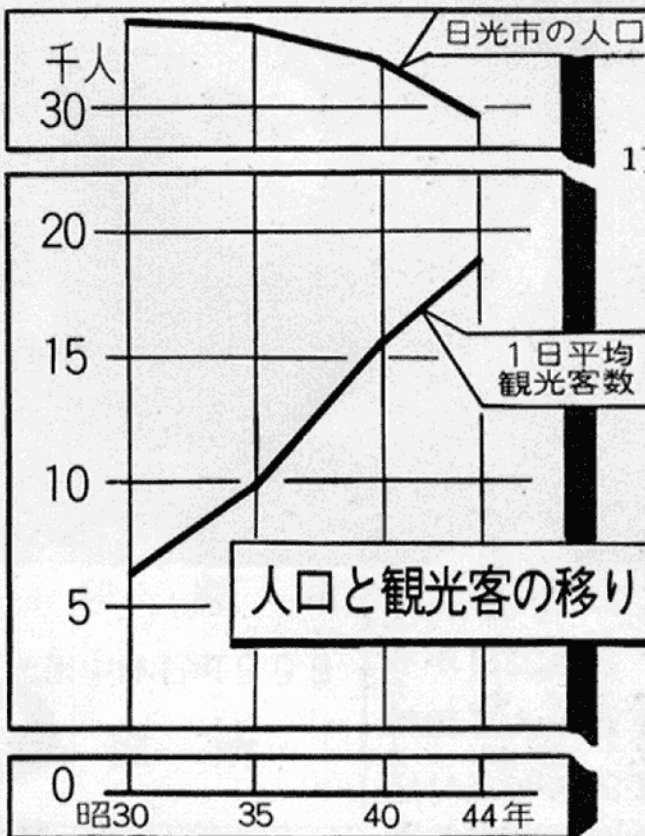
それは、本市を訪れる観光客の増加です。市観光課の調査では、昨年一年間に六九〇万人、紅葉シーズンの十月には一二七万人が日光市を訪れており、ピークの日曜日には、七万人から八万人の観光客が押し寄せますから、市民人口と合わせて、昼間人口は十万人をこえることとなります。

これらの観光客は、それなりの利益を本市にもたらしてはい

### 年間1万トンのゴミを処理……

市の清掃事業所が昨年1年間に処理したゴミの量は1万1,500トン。収集車で約7,700台分にもものぼります。

【写真は宝殿焼却場のゴミ処理作業】



ますが、反面、その受け入れのための駐車場の整備や、跡仕未ともいふべき、ゴミやし尿の処理などに、通常の都市以上の経費と労力が必要とされることはいうまでもありません。

市では、定住人口を確保して

人口減少を阻止するために、独自で住宅地を造成する計画をすすめる一方、高地陸上競技場や文化観光会館の建設など、新時代にふさわしい観光地づくりに力をいれています。

(次頁へ続く)